

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	みやき町立三根中学校
1 前年度 評価結果の概要	① 主体的な学びへ向けた指導方法の改善を継続し、共通認識を深める。個別支援の教化と授業改善を進め、学びの質向上を目指す。 ② 生徒個々の特性や状況を把握し、職員間での情報共有を強化する。組織的な対応の体制を確立して、安心・安全な学校環境を向上させる。 ③ 生徒の自発的活動をさらに促進し、キャリア形成に役立つ実践を強化する。
2 学校教育目標	三根中学校に誇りをもつ生徒を育てる ～自主、自律、寛容の態度形成を通して～
3 本年度の重点目標	① 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、主体的な学びに向けた指導方法の工夫改善を継続させる。 ② 生徒個々の特性や状態把握に努め、いじめの未然防止・教育相談と特別支援教育を充実させる。 ③ 生徒の全人的な成長を支え、自らの生き方を主体的に考える力を育むキャリア形成に係る教育実践を推進する。

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目									
重点取組			中間評価	最終評価	学校関係者評価				
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○校内研究を基にした指導法改善と全職員による共通認識及び共通実践	○学力向上対策評価シートに提示した、学習目標や指導事項に係る成果指標を達成した教師80%(3及び4の評価)	・各種調査の分析を基に、基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指した取り組みを実践 ・校内研究を軸に、成果指標を共有し授業づくりに随時反映	B	・職員間で学習状況調査の結果と概要を共有した。今後も、表現活動やアウトプットを意識した授業実践に努める。 ・1人1回の研究授業に取り組み、他教科との情報共有を通して授業法改善に努めた。	A	・学力向上マイプランの成果指標を達成できた教師81%。(4及び3の評価) ・ペア活動や学び合い活動を効果的に取り入れ、基礎・基本的な知識・技能の定着につなげた。今後はアウトプット力が課題である。	A	・生徒の授業や活動の様子を参観できる機会を増やしてもらう。 ・今後も、指導法の工夫改善をお願いします。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳」に対する生徒の肯定的評価4段階以上の割合を向上(60%以上)	・道徳の授業、全教育活動での道徳性の追究と実践促進 ・TTやローテーション道徳に取り組み、道徳授業の充実を図る	B	・各学年担当職員全員で道徳の授業を実践している。 ・生徒の意識調査は、最終評価前に実施予定。 ・学校行事等、様々な場面において道徳教育の実践ができているかの検証を行う。	A	・「道徳の時間にしっかり考えることができた」と回答した生徒75%。「道徳の時間は、自分の役に立っていると思う」と回答した生徒60%であった。(それぞれ4の評価)	A	・発達段階に応じて、心の成長が見られる。今後も継続して指導を進めていただきたい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○生活アンケート等において、安全・安心に学校生活を送れている生徒90%以上 ○2回目のQUテスト結果において、不満足群、非承認群を減少	・効果的な生活アンケートの実施(県調査を含め11回)、相談しやすい雰囲気づくり ・生徒指導協議会等で、共通理解と対応を協議	B	・毎月1回の生活アンケートの実施。訴えがあった生徒については、担任または学年の先生で対応した。 ・職員間の情報共有や対応については、組織的に行うことができるよう、検証・改善していく必要がある。	B	・生活アンケートで、安心・安全に学校生活を送ることができている生徒82%。 ・2回目のQU検査結果では、不満足群、非承認群が激減。 ・教員間の情報共有や組織的な対応については、より円滑に機能するよう、今後改善を図ってきたい。	B	・いじめの定義や判断の基準に不明な点があるため、委員としてさらに理解を深める必要がある。 ・町で運用しているスクリーニング(YOSS)も、さらに継続して活用していただきたい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・体験活動を取り入れた進路指導、進路学習の推進 ・自己肯定感を高める、実感のある承認の場面を取り入れた学校行事の実践	A	・3年間を見通した進路学習を行い、1年生の職業調べ、2年生のキッズニア体験や高校調べ、3年生での高校説明会や体験入学の参加などの活動を行った。 ・体育大会や文化発表会で実行委員を募り、生徒が主体的に活動できた。また、応援メッセージなどを利用して承認する雰囲気をつくった。	B	・「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と感じている生徒87%。 ・「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒72%。(それぞれ4及び3の評価) ・概ね、学校行事を含め、キャリア教育は成果をあげていると思われる。	B	・職業体験については、多くの体験ができてよいと思う。 ・学年が上がるにつれ、具体的な夢や目標を持つ生徒が増えている。しっかり成長できている。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	・食に関するアンケートを実施し、実態や経年変化による課題分析 ・食生活を改善する保健学習、食に関する学習(給食週間、みやき町食の日を機に食習慣改善の指導)	A	・健康・食事に関する調査を10月に実施し、「健康に良い食事をしている生徒」は88.1%であった。 ・生徒会活動において、給食の時間を活用した食に関する指導をしたり、生活習慣チェックを実施したりした。	A	・「朝食を必ずとる」と回答した生徒は、73%。(4の評価)「頻繁にとれないことがある」「全くとらない」と回答した生徒は6%であった。 ・「食事の栄養バランスに気をつけている」と回答した生徒は86%であった。(4及び3の評価)	A	・食事を取ることでなく、量や内容も重要である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・時間外勤務状況の客観的把握と課題改善、見直しをもった業務遂行 ・学校行事等の見直しと精選、「お互いさま精神」を育て休みやすい雰囲気づくり ・計画的年休取得日の設定	B	・今年度10月までの超過勤務の平均は30.2時間、45時間以上の超過勤務者の平均は19.0%となっている。やや増加傾向にあるが、超過勤務縮減は、達成できている。	B	・2月末までの月別時間外在校等時間の平均は、26時間41分であった。月当たり45時間超の延べ月数は39月であり、6ヶ月を超える職員が3名いた。 ・年次休暇取得日数14日以上職員は、7名であった。	B	・簡単なことではないと思うが、先生方には働き方を工夫し、改善を進めていただければと思う。それが結果として、子どもたちの成長にもつながっていくと感じている。
●特別支援教育の充実	○全ての生徒に対し、分かりやすい授業づくり ○生徒一人一人の実態を適切に把握し、授業の工夫と合理的配慮を行う	○「授業が分かりやすい」と肯定的な回答をした生徒75%以上	・UDを意識した多面的な指導改善 ・一人一人の実態に寄り添った集団による授業の工夫や合理的配慮の提供	B	・必要に応じて個別での学習時間をとるなどして生徒自身が「分かるや分かった。」と実感できる時間をもつことができた。コーディネーターを中心に交流学級担任、教科担当、学年団との連携や、学校全体での共通理解、実践が必要である。	A	・「授業内容は分かりやすい」と回答した生徒は94%であった。(4及び3の評価) ・「質問しやすい雰囲気がある」と回答した生徒は81%であった。(4及び3の評価)今後も、生徒の実態把握を行い、指導法の工夫改善を行っていく。	A	・全ての生徒に分かりやすい授業づくりに取り組んでいる点や、全体の学習意欲向上につながっている。今後も継続した指導をお願いしたい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			中間評価	最終評価	学校関係者評価				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○	◎三根中学校に誇りをもつ生徒の育成	○三根中所属への肯定的評価の向上(意識調査肯定的評価4段階評価の4の割合を55%以上)	・自立を促す出番、役割、承認の場面と客観的な振り返りの場面を設定 ・各種実践に対する生徒評価の還元	B	・意識調査はまだ行っていないが、文化発表会などの行事での応援メッセージや小学校運動会でのボランティア活動での称賛の声などを伝えることにより、所属への肯定的評価は上がっていると思う。さらに、生徒への承認の声掛けを増やしたい。	B	・「三根中学校に入学してよかった」と回答した生徒68%、「三根中学校に入学させてよかった」と回答した保護者26%(4段階で4の評価)であった。 ・保護者の視点を踏まえながら、学校運営の改善に継続して取り組んでいく。	B	・先生と生徒の間に良好な信頼関係が築かれていることが感じられる。 ・生徒への働きかけに加えて、保護者に対しても適切に情報を発信する方策を考えていくことが必要。

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ① 基礎的・基本的な知識・技能の定着を基盤として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をさらに推進する。 ② 生徒一人ひとりの特性や状況の把握、職員間の情報共有を一層進め、いじめの未然防止や教育相談、特別支援教育の充実を図る。 ③ 生徒の主体的な活動を支えながら、自己の生き方や将来を考える力を育むキャリア教育の充実を図る。
----------------	--